

扶助協会の設立



イリノイ州ノーブーにあるジョセフ・スミスの赤れんが造りの店

サラ・M・キンボールは、ノーブー神殿の建設に貢献する方法を話し合うために、12人ほどの女性を家に招待しました。ここで行われたことの概要は、『わたしの王国の娘』に次のように記されています。

「当時は、女性の間で自分たちの組織を作ることが流行していました。組織を運営するために規約と付則を作ることが普通に行われていました。サラ・キンボール家に集まった女性たちは規約と付則を決めることにしました。エライザ・R・スノーがそれらを起草する責任を引き受けました。その後女性たちは、ジョセフ・スミスに内容の検討と意見を求めました。預言者はそれらを読むと、『これほどすばらしいものは見たことがありません』と言いました。

『けれども、これは皆さんが望んでいるものではありません。姉妹たちに伝えてください。皆さんのささげ物は主に受け入れられており、主は皆さんに、記された規約以上に良いものを備えておられます。来週の木曜日の午後、わたしと数名の兄弟が出席して集会を開きますので、……全員集まってください。わたしは女性たちを神権の下に、神権の規範に倣って組織します。』[Sarah M. Kimball, “Auto-biography,” *Woman’s Exponent*, Sept. 1, 1883, 51]……

翌週の1842年3月17日木曜日、20名の女性が『赤れんが造りの店』と呼ばれる建物の2階に集まりました。そこはジョセフ・スミスが執務室を置き、家族を養うための店を開いていた場所でした。集会はジョセフ・スミスおよび二人の十二使徒定員会会員、ジョン・テラー長老とウィラード・リチャーズ長老の指示の下で開かれました。

預言者ジョセフ・スミスは当時女性の組織として広く行われていた形式を採りませんでした。末日聖徒の女性の組織は、神の啓示に基づく、正規の方法で組織されたのです。……

預言者ジョセフ・スミスはこのように宣言しました。『女性たちがこのように組織されるまでは、教会は決して完全に組織されていませんでした。』[『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』451]〔後に〕中央扶助協会第2代会長を務めたエライザ・R・スノーはこの教えを繰り返してこう言いました。『名称は近代につけられたものですが、この組織は古代からありました。殉教した預言者は同じ組織が古代の教会に存在したと語っています。』[Eliza R. Snow, “Female Relief Society,” *Deseret News*, Apr. 22, 1868, 1; *punctuation standardized*] (『わたしの王国の娘』11－12, 7)

- 扶助協会がどのように設立されたかに関して印象に残ったのはどんなことですか。
- この配付資料の文章から、扶助協会についてどのような真理を学ぶことができますか。